武家政権の始まりと伊勢原

「この世をばわが世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」(この世は、自分のためにあると思うほど満ち足りている。満月の欠けることがないのと同じように)と詠んだ藤原道長の歌にあるように、平安時代に政治の中心を担っていたのは藤原氏嫡流の摂関家(近衛家・一条家・九条家・鷹司家・二条家)を中心とする一部の貴族でした。

そんな中、土地を切り開き、農業などをして暮らす人々の中には、領地を守るために武芸に励む者が現れます。こうした人々から武士階級は生まれました。

当初は領地を守る一方で、貴族に雇われてボディガードのような役割を果たしていました。しかし、やがて力を増していき、源氏や平氏(平家)といった、貴族をしのぐ人々が現れます。

平安時代末期、平相国や六波羅殿と呼ばれ太政大臣となった平清盛(伊勢平氏の棟梁)によって日本で初めて武家政権が築かれ、征夷大将軍にもなった源頼朝(河内源氏の棟梁)により鎌倉幕府が開かれました。こうして武士が政治を行う政権は、江戸幕府が大政奉還*を行うまで、約700年続きました。

箱根の坂、足柄峠より東側にあり、坂東と呼ばれた現在の関東地方にあるこの地にも、源氏ゆかりの場所があるほか、歴史を動かした人物がいました。県内屈指の重要文化財を誇るなど、歴史と文化に彩られた伊勢原市。今号では、その平安時代末期～鎌倉時代初期に注目したいと思います。

*江戸幕府15代将軍の徳川慶喜が政治を行う権利を朝廷に返したこと

寅年の8月8日寅の刻 源頼朝・北条政子らが信仰した日向薬師

日向薬師・宝城坊はかつての日向山霊山寺の一坊で、奈良時代の霊亀2(716)年に僧の行基により開山されたといわれ、約1300年の歴史があります。鎌倉幕府の事績をまとめた、わが国における武家政権最初の記録『吾妻鏡』には、源頼朝が1回、北条政子が2回参詣したことが記されています。

中でも頼朝は寅年である建久5(1194)年の8月8日寅の刻(午前4時の前後2時間ごろ)に、娘である大姫の体が虎のように強健になり病気が快復するようにと参詣しています。また、その後も自身の歯痛平癒のため、代理の者を参拝させています。

鎌倉殿と呼ばれた源頼朝と、その御台所である北条政子という、武士の世の始まりを語る上で欠かすことのできない2人があつく信仰した日向薬師。内藤住職にその逸話をお話していただきました。

日向薬師 住職 内藤 京介さん(43歳)

北条義時をはじめ、13人の御家人も多数参詣したとされています

日向薬師は、霊山寺ともいわれ、日向十二坊と称されたように子院12坊を擁する、修験の拠点となる寺として栄えてきました。明治3(1870)年、神仏分離により別当(霊山寺の管理者)であった宝城坊のみが寺として残り、他の坊は帰農したり神官になったりしました。

頼朝は建久5(1194)年に、のちの2代鎌倉殿・頼家を支えるために定められた十三人の合議制のメンバー6人(北条義時・大江広元・梶原景時・和田義盛・三浦義澄・八田知家)とともに宝城坊を訪れています。また、政子は頼朝の死後、三代将軍実朝の夫人とともに参詣したといわれており、亡き頼朝の十三回忌で訪れたのではないかとも考えられています。

日向薬師に残る「破れ太鼓の伝説」

頼朝が参詣した際、大姫の病気治癒祈願のため、富士の巻き狩り(鹿などが生息する場所を四方から大勢で囲む大規模な狩猟)に使用した大太鼓を奉納したとされています。これには逸話があり、日向山の薬師のお祭りで叩くと、その音は須賀(平塚市)の海辺へと響き渡りました。しかし、この響きで海に魚が寄りつかなくなり、困った漁師が薬師へ押しかけ、太鼓の皮を破ってしまいました。それ以来、皮を張らなくなってしまったそうです。

日向薬師の大太鼓※非公開のため実物は見ることができません

関東有数の重要文化財を後世に引き継ぎたい

また、平安時代中期から鎌倉時代前期に造られた本尊の薬師三尊像や丈六の薬師如来像、阿弥陀如来像、十二神将像は、頼朝や政子に関連しているかもしれません。この時期のもので、ここまでしっかりと残っているのは関東地方ではかなり珍しいといわれています。

この貴重な文化財を後世に残していくためにも、多くの皆さんに足を運んでいただき、悠久の歴史に思いをはせてもらいたいですね。

国指定重要文化財である丈六の薬師如来像

初代鎌倉殿「源頼朝」にまつわる物語

市内には、頼朝に関連した伝承や地名が数多く残っています。江戸庶民に広まった納め太刀

江戸時代、とびなどの職人たちが巨大な木太刀を江戸から担いで運び、滝で身を清めてから奉納し、山頂を目指す納め太刀が流行しました。

頼朝が平家を打倒するため挙兵するにあたり、武運祈願のため、太刀を納めたことが起源とされています。

納め太刀は江戸庶民にも広く浸透し、職や地域ごとに講と呼ばれるグループを作り、頼朝の故事にならい、木太刀を担いで、大山の麓の宿坊までの約70キロを2日・3日かけて歩きました。

最初は小さいものがほとんどでしたが、次第により立派な木太刀を納めたいとの世相が広がり、大きさや造形に力を入れる講が増えました。

ほかにも、頼朝は建久3(1192)年に、子の実朝の出産に際し、安産祈願のため、大山寺と霊山寺、二宮冠大明神(比々多神社)に神馬(神の乗りものとする馬)を奉納しています。

伝承から残る地名や場所

洗水

頼朝一行が日向薬師参詣の際に、渋田川で人馬を洗い清めたことから字名が付いたといわれています。この辺りまでが鎌倉時代頃の日向薬師の境内だったともいわれています。

お通り坂

洗水にある諏訪神社前の急坂を「おとう坂」といいます。これはお通り坂が訛ったために「おとうざか」といわれる説や、諏訪神社のお堂があったことから「御堂坂」が「おとうざか」になったという説があります。

頼朝や政子、実朝の夫人などが日向薬師参詣のためにお通りになるというので、今の諏訪神社のそばを削り取って参詣道を新しく整備したそうです。

馬場 ※明確な場所は不明

頼朝の随兵たちの馬をつないだ場所といわれ、日向山の山伏たちの馬術の訓練場にもなりました。

また、藤野入口バス停近くには頼朝が馬をつないだといわれる「駒つなぎの松」があります。

衣裳場

日向薬師へ向かっていく途中の仁王門に上がる階段前の場所のことです。

頼朝が参詣の際、ここで旅装を脱ぎ白装束に衣装を変えて薬師如来を拝したと伝えられています。

鎌倉幕府創設に尽力した伊勢原武士3人

源平がしのぎを削った激動の平安時代末期から本格的な武家政権による統治が始まった鎌倉時代初期に生き、歴史の転換点に関わった伊勢原にゆかりの人物を紹介します。

「鎌倉殿」と伊勢原の文化財特設サイトを公開中

源頼朝に関わりのある伊勢原ゆかりの人物や寺社などを中心に歴史や文化財を紹介しています。詳しくは市ホームページ「『鎌倉殿』と伊勢原の文化財」特設サイト、または右のQRコードからご覧ください。

特設サイト

問教育総務課☎74-5109

文化財を見学する際はマナーを守りましょう

史跡を傷つけることは犯罪です。また、喫煙や飲食をしながらの見学はしないでください。近隣に配慮し、ゴミは必ず持ち帰りましょう。

糟屋有季

伊勢原の大部分を占めた荘園の当主

平安時代に藤原如丘が相模守として東国に下向し、そのまま任地に土着して糟屋と名乗りました。有季の父・盛久は、頼朝が以仁王の令旨を受けて挙兵した石橋山の戦いでは、平家方として大庭景親の軍に従っていましたが、後に頼朝側に従軍したとされています。

そして建仁3(1203)年、比企の乱が起こり、能員が北条氏に謀殺され、鎌倉の比企館が襲撃されます。有季は頼家の子・一幡を逃がすため、小御所に立てこもり、敵から命を惜しまれて逃げるように呼びかけられましたが、最後まで戦い、討ち死にしたとされています。

有季の子・有久は、頼朝の甥にあたる一条高能の側室となっていた姉妹を頼って上洛し、後鳥羽上皇に仕えましたが、その後の幕府と朝廷の戦い「承久の乱」で亡くなりました。

元弘3(1333)年に鎌倉幕府が倒れると、市内全域に広がっていた糟屋荘と呼ばれる荘園は、倒幕に功があり、後に室町幕府を開いた足利(源)尊氏に与えられます。尊氏の母は上杉氏の出身でした。現在の産業能率大学がある台地に上杉館があったとされ、江戸城を築いた太田道灌はこの館で亡くなっています。

なお、上粕屋地区にはかつて極楽寺という寺がありました。そこには有季が建久7(1196)年に奉納した梵鐘(時を知らせ、民衆を集めるために用いた鐘)がありました。しかし、この鐘も明治初期の廃仏毀釈により、失われてしまいました。極楽寺跡とされるあたりに糟屋一族の墓とされる古い石塔群がありましたが、新東名高速道路建設用地となったため、現在は上粕屋の洞昌院に移されています。

極楽寺跡とされる場所にあった糟屋一族の墓(移設される前)

岡崎(三浦)義実

岡崎地区に城を構え、源氏を支えた豪勇

岡崎氏は、桓武平氏の系統を引く三浦一族の支族です。三浦の衣笠(横須賀市)の城主三浦義継の四男、三浦義実が相州岡崎郷に城を築いて住み、地名をとって岡崎義実と称したことに始まります。

義実は、あまりにも強かったために「悪四郎」と呼ばれた豪傑な武将でした。源氏への忠義が厚く、平治の乱で頼朝の父・義朝が敗死した後、義朝の館があった鎌倉の亀谷の地に菩提を弔う寺院を建立。頼朝が石橋山で挙兵したときにはすでに69歳という年齢でしたが、先陣に立って平家と戦いました。このとき、嫡子の真田義忠は、敵の侯野景久の郎党によって討たれています。

義実は石橋山の合戦以後も頼朝につき従って行動し、頼朝とは主従を越えた公私にわたる深いつながりがあったそうです。

頼朝と義経が再会した、かの有名なシーン「黄瀬川の対面」にも登場

治承4(1180)年には、富士川の戦いに参陣。合戦は源氏側が相手の背後に進出しようとしたところ、驚いて飛び立った水鳥の羽音を大軍がきたと勘違いした平家が敗走して終わったとされています。合戦後の夜に、一人の青年が黄瀬川の陣に現れ、頼朝との面会を求めましたが、その場にいた義実は怪しんで取り次ごうとはしなかったといいます。騒ぎを聞きつけた頼朝が面会すると、その青年は弟の義経でした。感動の対面に義実をはじめとする諸将は涙を流したとのことです。

鎌倉幕府が成立するのを見届けた翌年、義実は老いた身を引いて出家していますが、岡崎氏は三浦の四棟梁(三浦・和田・佐原・岡崎)の一つに数えられ、鎌倉幕府に重きをなす臣下となっています。

義実が居城としたとされる岡崎城は、伊勢原市の南東から市境をまたいで、平塚市に広がる台地上にあったとされています。

石田為久

朝日(旭)将軍「木曽義仲」を討ち取った伝説

石田郷の地名をとって石田姓を名乗った石田為久もまた、相模土着の豪族である三浦氏の一門でした。相模岡崎城主であった岡崎義実の兄、芦名為清の孫にあたります。

寿永3(1184)年1月20日、頼朝の命を受けた範頼・義経の連合軍は、いち早く平家を京都から追い出し、代わりに入京していた木曽(源)義仲を攻めました。宇治川の戦いに敗れた義仲は、苦楽を共にしてきた巴御前や側近の今井兼平ら数人の部下と北陸へ落ち延びようとしましたが、途中の近江粟津原(滋賀県大津市)で31歳の生涯を閉じました。

史書によれば、為久は三浦の一党として連合軍に加勢し、深い泥沼にはまり込んで身動きのとれなくなっていた義仲を見るや、弓を引き絞ってそのかぶとを射貫き、倒れたところを郎党2人が駆けつけ、首を取ったそうです。その功績から、為久の武名はまたたく間に全国に轟きました。この恩賞により、為久は近江国室保を与えられたといいます。今も滋賀県長浜市には石田町という名が残っています。為久が本拠地である伊勢原で居城としたといわれているのが石田城です。城跡は石田の小字引地から外堀にわたる台地の突端にあったといわれていますが、付近の発掘調査では確証を得られていません。

為久以後の一族も、鎌倉幕府の御家人としてこの石田郷を治めていたようですが、宝治元(1247)年の宝治合戦で、石田大炊助という人物が自害してからは、記録の上から石田氏は姿を消してしまいます。石田地区にある円光院裏の墓地には、為久の墓(供養塔)があります。

昭和期に建てられた石田為久の墓

多数発見されています、鎌倉時代の遺跡

新東名高速道路や厚木秦野道路(国道246号バイパス)、県道603号(上粕屋厚木)の工事に伴い調査された遺跡からは、旧石器時代から江戸時代のものまで、多くの文化財が出土しています。県内の発掘調査にかかわる公益財団法人かながわ考古学財団調査研究部の松葉さんにお話を伺いました。

かながわ考古学財団 調査研究部 松葉 崇さん(46歳)

秀峰大山の玄関口に構えた中世の館跡

16年前から、新東名高速道路周辺で埋蔵文化財発掘調査を行っています。この地では、当初は太田道灌や上杉定正に関わる時代の文化財が出てくるだろうと思われましたが、いざ発掘すると鎌倉時代のものもでてきました。子易・中川原遺跡や神成松遺跡、上粕屋・子易遺跡では鎌倉時代の館跡とその周りからは堀と思われる溝も見つかっています。この時代の館跡は確認例が少なく、まれにみる発見といえます。霊峰大山とうたわれ、信仰の対象とされてきた山の麓にあえて館を置けたことからも、当地域を治めた糟屋氏との関係がうかがえます。

考古学の見地から見た糟屋氏

糟屋氏は比企の乱で敗れてから衰退していったといわれています。しかし、その後も糟屋氏の分家で残った人たちが2代執権・北条義時の嫡流である得宗家の身内人になっていったとされています。私も史実では聞いていましたが、発掘調査でもこのころの遺跡が発見されています。

ただし考古学では、土器や石器が多く出土しても、名前が書いてあるわけではないので個人を特定することは難しいのが現状です。それでも想定の域で、あれこれ考えながら議論されていくことが歴史研究の面白いところですね。

かながわ考古学財団 提供

遺構(建物の柱穴など)をマークする発掘現場の様子

かながわ考古学財団 提供

神成松遺跡の方形館跡。周囲に溝が掘られています

観光音声ガイドwebアプリ「GURURI」をご活用ください

スマートフォンで左のQRコードを読み込むと現在地と県内にある「鎌倉殿」ゆかりの地の位置情報が連動し、音声ガイドを聞くことができます◇利用者のコメントやゆかりの地の情報などを見ることができます

音声ガイド

対象となる場所(市内) ◆大山◆三之宮比々多神社◆日向薬師

問商工観光課☎94-4729